

アイソ・ラボ株式会社様の事例

BCMS の登録範囲
ISO、OHSAS、JIS規格のマネジメントシステムのコンサルティング(構築支援、取得支援、ユーザー教育)
BCMS を構築したきっかけと目的
創業満10年を迎えるにあたって自社しかやれないコンサル支援メニューを持ちたいと考えた。そのことをきっかけにBCMSに取り組むこととなった。ISO取得をお客様が設定した日までに実現するために、自然災害や事故、健康上の理由で担当コンサルタントが継続支援できなくなる事態が発生しても、代替りのコンサルタントを派遣し、スムーズに引き継ぎができるようにすることを目的にシステム構築した。
BCMS に取組んで改善されたこと(事業継続戦略の実行状況、認証取得のメリットなど)
今までのところBCPを発動する機会はないが、さまざまな場面で役に立っている。その一例をお話します。弊社のコンサルタントは業務遂行のために常時パソコンを携帯している。そのパソコンが仕事の途上で壊れるというインシデントがあった。このときBCP用として作成したソフトウェアインストール手順書が役に立った。このインストール手順書には、パソコンを使う上で最低限必要なソフトウェア、それらのインストール手順、細かい設定パラメータ、IDとパスワードが詳しく書かれている。データは定期的にバックアップを取っている。パソコンは重要な資源として従来から捉えていたが、パソコンが仕事の途上で壊れた際にも、BCP 発動の際に用いる、この手順書は役に立った。この手順書のおかげで日常やらないインストール作業が1日で済んだ。手順書がなかったら10日以上上の期間が必要だったと思われる。作成したBCPは想定外のリスクにも活かせるというメリットがある。BCMSの認証取得のメリットは、自社だけでは気づかないインシデントへの対応について、審査員から気づきを与えてもらえる所にあると実感している。
BCMS 構築・運用を通して気付いたこと(目標復旧時間達成状況[実践や演習などを通じた]についても)
作成されたBCPは、絵に描いた餅である。実際の場面で役に立つものにするには、設定された手順を演習して確認する必要がある。弊社の場合、事務所は2階にあるが、階段が被災し使えなくなったことを想定していなかった。審査員に指摘して始めて気づいたことも多々ある。
BCMS を構築した時に苦労したところ
弊社はISOコンサル会社であるが、BCMSの構築にあたって、社内の優秀なコンサルタントを集めてプロジェクトチームを編成した。月に2日間の会合を持ち、規格の理解を深めるために規格解説書を作成した、その後事業継続マニュアルを作成、記録を残すための様式を作成したが、規格の理解が難しかった。それは、当時、参考書が販売されていない状況だったからである。このため知恵を結集して規格要求の理解に努めた。
東日本大震災やタイ洪水など、実際の脅威が発生した際にBCMSを構築・運用していたおかげで助かった点や課題
東日本大震災では、直接の被害はなくBCPの発動はなかった。それでも唯一実施したのは安否確認だった。BCPのおかげで安否確認はスムーズに実施できた。

組織(経営)戦略実現のための、事業継続の位置付け

BCMSは企業にとって不可欠なものと今は思っている。仕事を発注するお客様は、発注した会社に期待をしている。その期待には、どのような状況下でも応えなければならない。多くの会社は有事のことは考慮してはいない。それで本当に良いのか考え直す必要があるのではないか。企業はお客様によって成り立つ。お客様の期待に応える、このことは企業にとって最優先課題のひとつと考えるべきでだと思う。

BCMS を取得してよかったところ、他者にBCMSをお勧めするとすればどういうところが良い点か

BCMSに取り組んで良かったことは、リスクに対するバックアップ体制を常に考えるようになった点である。この機器が突然壊れたらどうしよう。この人が出社できない状況が発生したらどうしよう。ハード、ソフトに限らずそのようなことに思考が及ぶようになったことである。その思考が現実化し備えができたなら会社は揺るぎないものになるはずである。

BCMS 規格に対する問題点・改善提案

規格要求の理解が難しく普及に支障があると思う。早くJIS化され、解説書の発行が盛んになることを願っている。